

令和六年度 入学者選抜学力検査問題

国 語

注 意 事 項

- 一 試験開始の合図があるまで、問題冊子及び解答用紙の中を見てはいけません。
- 二 解答用紙は三枚あります。
- 三 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の枚数の過不足や汚れ等気がついた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
- 四 試験開始後、すべての解答用紙に受験番号、志望学部及び氏名を記入してください。  
受験番号の記入欄は各解答用紙に二箇所あります。
- 五 解答はすべて解答用紙の指定された解答欄に記入してください。
- 六 問題冊子の余白は適宜使用してください。
- 七 各問題の配点は二百点満点としたときのものです。
- 八 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

— 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(配点80)

「著作権保護の観点から掲載しておりません」

「著作権保護の観点から掲載しておりません」

〔著作権保護の観点から掲載しておりません〕

(小林康夫『青の美術史』より)

(注)

- 1 スペクトル——可視光を分光器(プリズム)で分解した時に得られる、波長(周波数)の順に並んだ帯状の光の像。
- 2 バウハウス——一九一九年にドイツのワイマールに設立された国立の総合造形学校。近代デザインの確立に大きな足跡を残した。

問一 傍線部①〜⑥について、漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

問二 空欄 I 〓 V に入る言葉として最も適当なものを、次のア〜キの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。ただし、それぞれ一度しか使うことができない。

- ア 計画的                      イ 連続的                      ウ 創造的                      エ 圧倒的                      オ 必然的                      カ 歴史的                      キ 物理学的

問三 傍線部 A「象徴的な記号システム」とはどのようなものか。五十字以内で説明しなさい。

問四  で囲われた部分の記述の説明として最も適切なものを、次のア〜オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 二つの段落を通じて、赤―青という組み合わせを複数の事例に基づいて説明し、地上の生命が生きる環境が色のスペクトルと見事に対応している点を、奇蹟と呼ぶべき事態であると主張している。

イ 赤―青が補色に近い関係にあり、色の組み合わせの中で最も基本的なものであること、二色間の変化が、地上の生命の身体や生きる環境を象徴的に表すことを、筆者の見解として提示している。

ウ 色彩の発達上、赤―青という組み合わせが特別に重要なものであるという仮説を立てた上で、例を挙げながら論述してその仮説を修正しつつ、より科学的で妥当な見解を導き出そうとしている。

エ 最初の段落では、赤―青の関係が色彩スペクトルの補色関係とは違うこと、次の段落では、地球の中心から天空に至る色彩変化が虹の色帯とは異なることを問題にして、結論に留保を加えている。

オ 最初の段落では、赤と青の二色が互いに補色の関係にあると捉え、次の段落では、赤から青への変化を連続的なものと捉えるという具合に、二色の科学的な関係を多義的に理解しようとしている。

問五 (X)に入る言葉として最も適切なものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア この世界の複雑さと奥深さを示す魅力的な記号
- イ この世界の謎を説明するための唯一の手がかり
- ウ この世界の事象を分類・理解するのに必要不可欠なラベル
- エ この世界のなかにおける人間の場を示す強力な指標
- オ この世界における諸事象が構成する関係の網の目

問六 傍線部B「色は、対象の純粋に客観的な属性ではなく、すでに人間と対象との知覚の関係性に立脚した関係の表現です」とあるが、これはどういふことか。七十字以内で説明しなさい。

問七 傍線部C「色は人間の根本言語であり」とあるが、「色」が「言語」だとされているのはなぜか。その理由を、百字以内で説明しなさい。

二 次の記事を読んで、後の問いに答えなさい。(配点70点)

旅人の宿求めけるに、大きやかなる家の、あばれたるが<sup>①</sup>ありけるによりて、「ここに宿し給ひてんや」といへば、女声にて「よき事、宿り給へ」といへば、皆おりぬにけり。屋大きなれども人のありげもなし。ただ女一人ぞあるけはひしける。<sup>②</sup>

かくて夜明けにければ、物食ひしたためて出でて行くを、この家にある女出でて来て、「え出でおはせじ。とどまり給へ」といふ。<sup>③</sup>「こはいかに」と問へば、

「おのれが金千両を負ひ給へり。そのわきまへしてこそ出で給はめ」といへば、この旅人従者ども笑ひて、「あら、しや、さんなめり」といへば、この旅人、

「しばし」といひて、またおりぬて、皮籠を乞ひ寄せて幕引きめぐらして、しばしばかりありて、この女を呼びければ、出で来にけり。<sup>A</sup>

旅人問ふやうは、「この親はもし易のうらといふ事やせられし」と問へば、「いさ、さ侍りけん。そのし給ふやうなる事はし給ひき」といへば、「さるなる」といひて、

「さても何事にて千両の金負ひたる、そのわきまへせよとはいふぞ」と問へば、「おのれが親の失せ侍りし折に、世の中にあるべき程の物など得

させ置きて申ししやう、『今なん十年ありてその月にここに旅人来て宿らんとす。その人は我が金を千両負ひたる人なり。それにその金を乞ひて、耐へが

たからん折は売りて過ぎよ』と申ししかば、今までは親の得させて侍りし物を少しづつも売り使ひて、今年となりては売るべき物も待らぬままに、『いつ

しか我が親のいひし月日の、とく来かし』と待ち侍りつるに、今日に当りておはして宿り給へれば、『金負ひ給へる人なり』と思ひて申すなり」といへば、

「金の事はまことなり。さる事あるらん」とて、女を片隅に引きて行きて、人にも知らせで柱を叩かすれば、うつほなる声のする所を、「くは、これが中に

のたまふ金はあるぞ。あけて少しづつ取り出でて使ひ給へ」と教へて出でて往にけり。<sup>C</sup>

この女の親の、易のうらの上手にて、この女の有様を勘へけるに、「今十年ありて貧しくならんとす。その月日、易の占ひする男来て宿らんず」と勘へ

て、「かかる金あると告げては、まだしきに取り出でて使ひ失ひては、貧しくならん程に使ふ物なくて感ひなん」と思ひて、しか言ひ教へ、死にける後に

も、この家をも売り失はずして今日を待ちつけて、この人をかく責めければ、これも易の占ひする者にて、心を得て占ひ出して教へ、出でて往にけるなり

けり。

易のうらは、行く末をたなこ掌ての中のやうに指して知る事にてありけるなり。

〔宇治拾遺物語〕より

(注)

- 1 両——重さの単位。
- 2 わきまへ——返済。
- 3 旅人従者ども——旅人の供たち。
- 4 しゃ——嘲り罵つて言う語。
- 5 ざん——言いがかり。
- 6 皮籠——皮を張つたかご。
- 7 易のうら——『易経』に基づく占い。
- 8 さるなる——そうだろう、そのはずだと納得したことを表している。
- 9 うつほ——空洞。
- 10 くは——相手の注意を促す語。ほら。
- 11 勘へけるに——占って判断したところ。



問一 傍線部 a ～ d の動詞・助動詞について、それぞれの活用形を答えなさい。

問二 傍線部 A「出で来にけり」、B「し給ひき」、C「教へて」、D「責めければ」について、それぞれの主語を次のア～エの選択肢の中から一つ選び、記号で答えなさい。なお、同じ記号を何度選んでもよい。

ア 女（この家にある女）

イ 旅人

ウ 従者

エ 女の親

問三 傍線部 ①「あばれたるが」、②「ここに宿し給ひてんや」、③「え出でおはせじ」を、それぞれ現代語訳しなさい。

問四 傍線部 ④「さんなめり」とあるが、誰からの、どのような内容の発言に対して、「さんなめり」と言っているのか、説明しなさい。

問五 傍線部 ⑤「しか言ひ教へ」について、次の問い（Ⅰ・Ⅱ）に答えなさい。

Ⅰ 「しか」の指す内容に該当する箇所を現代語訳しなさい。

Ⅱ 女の親は、どのようなことを考えて、「しか言ひ教へ」たのか。女の親の考えた内容を、二百字程度で、答えなさい。



三 次の文章は、前漢の武帝の時代、長平侯に封ぜられた大將軍衛青が匈奴との戦いから帰還し、その功績により褒賞を与えられ、宮門を出る際に齊地方出身の方術士東郭先生に出会った時から始まる逸話である。これを読んで、後の問いに答えなさい（設問の都合で返り点、送り仮名を省いたところがある）。（配点50）

武帝時、大將軍衛青者、衛后兄也。封為長平侯。從軍擊匈奴、至余吾水、

上而還、斬首捕虜、有功來歸、詔賜金千斤。將軍出宮門、齊人東郭先生

以方士待詔公車、當道遮衛將軍車、拜謁曰、「願白事。」將軍止車前、

東郭先生旁車言曰、「王夫人新得幸於上、家貧。今將軍得金千斤。誠以

其半賜王夫人之親、人主聞之必喜。此所謂奇策便計也。」衛將軍謝之曰、

「先生幸告之、以便計、請奉教。」於是衛將軍乃以五百金為王夫人之親壽。

王夫人以聞武帝。帝曰、「大將軍不知為此。」問之安所受計策、對曰、「受

之待詔者東郭先生。<sup>①</sup>詔召東郭先生、<sup>②</sup>拜以為郡都尉。東郭先生久待詔公  
 車、貧困飢寒、衣敝、履不完。<sup>③</sup>行雪中、履有上無下、足尽踐地。道中人笑  
 之、東郭先生応之曰、「誰能履行雪中、令一人視之、其上履也、其履下処乃  
 似人足者乎。」<sup>④</sup>及其拜為二千石、佩青緡出宮門、行謝主人。故所以同官  
 待詔者、<sup>⑤</sup>等比祖道於都門外。榮華道路、立名當世。此所謂衣褐懷宝者也。  
 當其貧困時、人莫省視、至其貴也、乃争附之。諺曰、「相馬失之瘦、相  
 士失之貧。」其此之謂邪。

(注)

- 1 余吾水——川の名。現在のモンゴル国の北部にあった。
- 2 待詔——皇帝の詔を待つ。

『史記』滑稽列伝より

- 3 公車——漢代の役所の名。公車令という官を置いて、宮殿の外門である司馬門の警備を司らせた。朝廷への上書や官職の授与等のことはここを經由して受理された。
- 4 王夫人——武帝の愛妾。後の斉王劉闔を生む。
- 5 親寿——親の長寿の祝い。
- 6 聞——報告する。
- 7 郡都尉——官職の名。地方の軍隊を司る武官。
- 8 二千石——二千石の俸禄を与えられる官。
- 9 青緇——官印をゆわえる青いひも。
- 10 主人——ここでは下宿の主人の意。
- 11 等比——いっしょに。
- 12 祖道——送別の宴を開く。
- 13 褐——粗末な着物。

問一 本文中には「武帝」・「帝」以外に武帝個人を指す用語が二つある。その二語を挙げなさい。

問二 本文中の波線部 a「於是」、b「乃」、c「対」を訓読し、送り仮名があれば、それも含めて平仮名で書きなさい。解答は現代仮名遣いでよい。

問三 傍線部①「問之安所受計策」、③「及其拜為二千石、佩青緇出宮門、行謝主人」を漢字仮名交じり文で書き下しなさい。

問四 傍線部②「行雪中、履有上無下、足尽踐地」を現代語訳しなさい。

問五 傍線部④「故所以同官待詔者」は「故の同官を以て詔を待つ所の者」と訓読する。これに従って返り点を施しなさい。

問六 傍線部⑤「相馬失之瘦、相士失之貧」とはどういう意味か。八十字以内で説明しなさい。